□議員名：矢田松夫

1　四つの基本目標と１７の基本方針の施策展開について

論点	１校専任配置から２校から３校兼務配置に方針転換された理由は何か
回答	手探りの状態でスタートして十何年たっていて、司書がすべき仕事の内容が整理され、総合的に考案して２校兼務や時間短縮でも読書活動の充実が図られると判断した。

論点	国の学校図書館法では、現在の配置水準が下がることがないよう留意せよとなっている。
回答	学校司書の配置は職員のように取り扱うということであれば、国や県の責任において配置することが筋ではないかと考えている。

論点	司書がいないときは図書館の閉館はあり得るのか。
回答	生徒指導上、安全上の理由で司書がいないときは一時施錠することもある。

論点	学校司書配置事業費が前年比で約９５０万円減額されているが、この要因は何か。
回答	学校司書を２名減員した。人件費のカットである。

論点	司書１１人から９人に減員し、２校から４校兼務配置しており、雇用も不安定な１年契約であり処遇改善する気があるのか。
回答	現在のところ、処遇改善について直接そのような声が届いていない。声を聞いた上で総合的に勘案して、改善が必要であれば動くが、必要でなければ改善するつもりはない。

2　文化財に親しむ環境の整備や活用について

論点	歴史民俗資料館は老朽化が進み、収蔵スペースも手狭となった現状から、この４年間で改修や改善するのか。
回答	現時点では計画はない。

３　教職員の資質向上と働きやすい環境づくりについて

論点	教職員１人当たりの１か月の平均時間外在校等の時間数の最終目標をどのくらいに置いているのか。
回答	１か月４５時間以下の割合を１００％に近づけるようにしている。１年間における１か月当たりの平均を３０時間にするよう学校に周知している。

論点	業務支援員を中学校５校、小学校１校に配置されてきたが、今年度から中学校１校について指定校を削除されているが、この要因は何か。
回答	令和８年度から中学校３校、小学校１校に配置している。校務のデジタル化が進み、印刷業務が減少、児童生徒数の減少、部活動の地域展開で総合的に判断した。